

アクション・プランのパブリックコメントの状況

平成 22 年 6 月 3 日
内閣府政策統括官
(科学技術政策・イノベーション担当)

1. 意見募集期間

平成 22 年 5 月 21 日 (金) ~ 5 月 28 日 (金) 12 : 00

2. 意見提出数

合計 859 件

※ 1 人から複数の意見提出があった場合には、それぞれ別個にカウントしています。

3. 属性別集計

属性	意見数
研究者	537 件
会社員	122 件
団体職員	109 件
公務員	25 件
その他	66 件
合計	859 件

4. テーマ別集計

テーマ	意見数
1. 基本的考え方関係	196 件
2. グリーン・イノベーション関係	530 件
3. ライフ・イノベーション関係	287 件
4. 競争的資金の使用ルール等の統一化関係	73 件
5. 巻末資料関係	2 件
その他	17 件
合計	1,105 件

※ 複数のテーマで意見提出があった場合には、それぞれ別個にカウントしています。

5. ご意見への対応

ここでは、内容と件数を踏まえて、事務局が重要と考える主な意見への対応を示す。これら以外のご意見についても対応。

§ 基本的考え方関係

【主なご意見】

- 人材育成・基礎研究も重視すべき。また、グリーンとライフ関連以外の科学・技術（第3期基本計画に含まれている分野等）も重要。

2大イノベーションだけ優先的に予算をつけるのであれば、その他の研究の継続性を壊し、成果が得られない。高度成長期ならいざ知らず、国がわざわざ土俵を作らないとイノベーションが起こらないのか。

- 産業界も含め、基礎科学諸分野の研究者から開発の最前線に携わる研究者まで、様々な関係者などと十分な時間をかけて意見交換することが必要。広範な分野から産学官の関係者の参画を得た検討の場の構築は急務。

【ご意見への対処方針】

- 平成23年度は新たな取組の初年度であることから、一部の課題について先行的にアクション・プランの対象としており、アクション・プラン対象施策のみに重点化して基礎研究や人材育成、他の分野を軽視するという意図は無い。

このため、アクション・プラン本文中においてもその旨を記載するとともに、今後策定する資源配分方針においても、科学・技術全体に対する総合科学技術会議の姿勢を明確に示していきたい。

- このため、「1. 2 平成23年度に向けて策定するアクション・プラン」（3ページ）の柱書きとして、以下の枠内のとおり追記する。

- 我が国が目指す将来のあるべき姿・社会を実現するため、成長を支えるプラットフォームとして以下をはじめとする科学・技術全体の底上げが重要

- ・ 基礎研究や人材育成強化による我が国基礎体力強化
- ・ 国家を支え新たな強みを生み出す研究開発
- ・ イノベーション創出に資する研究開発システム改革

- 平成23年度はアクション・プランの初年度であることから、以下に示すように、グリーン及びライフの2大イノベーションの一部及び競争的資金の使用ルール等の統一化についてアクション・プランを策定する。

- 基礎科学から産業界まで、多様な関係者の知見を伺うことは重要と考える。産学官の多様な関係者の参画を得た検討の場の構築については、研究開発システムワーキンググループや基本政策専門調査会においてもその重要性が指摘されているところである。今後その具体的な構築に向けて検討を進めて参りたい。

§ グリーン・イノベーション関係

【主なご意見】

- 植物科学を利用した技術の研究も位置づける必要がある。
- 風力エネルギー、海洋エネルギー、地熱エネルギー等を利用した技術の研究も位置づける必要がある。
- 食料増産技術、農業技術の研究も位置づける必要がある。
- 森林・生物多様性の保全、自然共生も位置づける必要がある。
- 高効率航空機の研究も位置づける必要がある。
- 無駄な電力消費を省くことができる情報通信技術を利用したシステムの研究も位置づける必要がある。
- 材料技術、水素製造技術、ヒートポンプ、超電導技術、地球観測・気候変動予測の研究等も位置づける必要がある。

【ご意見への対処方針】

- 課題「再生可能エネルギーへの転換」（9ページ）
方策「太陽光発電などによる再生可能エネルギーへの転換の促進」を2つに分け、新たに「バイオマスによる再生可能エネルギーへの転換の促進」を設定する。
 - ・ 新たな方策「バイオマスによる再生可能エネルギーへの転換の促進」の中で、植物機能の解明、植物の活用技術など植物科学を利用した研究開発を明確に位置づける。
 - ・ 「太陽光発電などによる再生可能エネルギーへの転換の促進」の中に、風力エネルギー、海洋エネルギー、地熱エネルギー等を利用した技術を明確に位置づける。

- 課題「エネルギー供給・利用の低炭素化」(12 ページ)
 - ・ 方策「化石資源の効率的使用」の中に、超電導送電技術を明確に位置づける。

- 課題「エネルギー利用の省エネ化」(15 ページ)
 - ・ 方策「次世代自動車の普及による交通運輸分野の低炭素化」において、高効率輸送機器について高効率船舶に加え、高効率航空機を併記する。
 - ・ 方策「次世代自動車の普及による交通運輸分野の低炭素化」の中に水素供給システム(製造・輸送・貯蔵)を明確に位置づける。
 - ・ 方策「次世代自動車の普及による交通運輸分野の低炭素化」及び「オフィス・住宅の省エネ化」の中に、材料技術を明確に位置づける。
 - ・ 方策「情報家電・情報通信機器等の省エネ化」を「情報通信技術の活用による低炭素化」と変更し、情報通信技術を利用したシステムによる省エネ化を明確に位置づける。

- 課題「社会インフラのグリーン化」(19 ページ)
 - ・ 方策「環境先進技術による社会インフラのグリーン化への支援」を2つに分け、新たに「豊かな緑環境・自然循環の形成」を設定し、その中で、
 - －循環型食料生産の推進
 - －地球観測・気候変動予測・総合解析の高度化
 - －気候変動に対応した森林、生物多様性の保全
 を明確に位置付ける。

§ ライフ・イノベーション関係

【主なご意見】

- ゲノムコホート研究に期待するとともに、実施には疫学・ゲノム研究を熟知した研究者が不可欠であり、10-20年後を見据え、セキュリティを確保して進める必要がある。また、対象疾患にがんを含め、エコチル調査等とも連携すべき。

- 革新的診断・治療法の開発による治癒率の向上について、力を入れて取り組むべきであり、特に「がん」は、医工・産官連携し、継続して行う必要がある。

- 高齢者・障がい者のための生活支援技術においては、ロボット・テクノ

ロジやユビキタス・ネットワークの研究開発が重要である。

【ご意見への対処方針】

当該課題については、各ご意見を十分踏まえ、ご指摘事項を含めて推進していく（修文なし）。

§ 競争的資金の使用ルール等の統一化関係

【主なご意見】

- 競争的資金の使用ルール等の統一化は、費目構成の統一や費目間流用の統一、実績報告書の提出期限の統一など、各研究機関での外部資金の適切な執行に結びつく、良い改革と考えます。
- 競争的資金の使用ルール等の「統一化」というタイトルになっているが、複雑なルールに統一されても意味はなく、「簡素化」などの言葉と列記してはどうか。
- 競争的資金をできるだけ配分機関に移行し、「最先端研究開発支援プログラム」で実現できた「基金制度」を可能な限り多くの競争的資金に広げていただきたい。
- 使用ルールの統一化に加え、競争的資金の公募、申請、実施、評価の一連のプロセスにおける業務フローの簡素化・迅速化についても検討を加えるべきである。交付時期の早期化、単年度会計の見直しなどについて、さらなる改善が必要である。
- 制度の数だけルールがあるわけであり、ルールの統一化云々の前に、いの一に制度の大胆な大括り化が必要ではないか。
- 制度を一つにまとめれば無駄がなくなるわけではない。重要なのは、同じテーマに対して複数の多様な組織が競合することである。

【ご意見への対処方針】

- 使用ルール等の統一だけが目的ではないので、ご意見を踏まえ、タイトルなどを「競争的資金の使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化」に修正する。
- 公募時期及び交付時期の早期化について、ご意見を踏まえ、今後、各競争的資金制度における実態を把握し、改善について検討することとし、そ

の旨を「4. 2. 7 その他の課題」(42 ページ) に記述する。

- 加えて、パブリックコメントでは、競争的資金の使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化について、実施を期待する意見が多かったことを踏まえて、以下の内容を追加することとする。(「4. 3 ロードマップ」(42 ページ))
 - ① 個別の課題ごとに、ロードマップを作成し、アクション・プランに掲載する。
 - ② 所管府省等における、使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化に向けての取組みについて、「科学技術関係施策の優先度判定(SABC判定)等」において、各競争的資金にかかる概算要求を判定する際の重要な要素とする。

※ 科学・技術全般に関するご意見については、後ほど取りまとめることとします